

# 名誉園長の部屋

## 2020. 10. 7

KYOTO BOTANICAL GARDENS

### 自然の神秘 おもしろさ伝える

先日京都新聞社から取材があり、2020年9月13日付け京都新聞に掲載されました。経緯や現在の心情のエッセンスがまとまっています。

僭越ですが、ご一読いただくと嬉しいです、そのうえで、改めて京都府立植物園を俯瞰していただくと、なおありがたく思います。

記事掲載に当たり、京都新聞社から多大のご厚意をいただきました。痛く感謝!

令和2年(2020年)9月13日(日曜日) 本版 朝刊 ホームB 朝刊 021ページ

## 自然の神秘 おもしろさ伝える

それぞれの  
**人生つが**  
第4部

京都府立植物園名誉園長、府立大客員教授

松谷茂さん (70)



「中学から社会人までバレーボールをしてきたので困難に直面した時は負けへんぞ」と思っていました。好きな言葉は「種やかにです」と話す松谷茂さん(京都市左京区)

### 現場重視「ほんまもん」で勝負

植物に負担を与えないよう

に剪定はさみで丁寧に葉や枝を切る。小中高生や大学生に手渡し、匂いをかぎ、かんで味わうことを勧めてきた。

「新型コロナウイルスの影響で今はできないのが残念ですが、例えばニガキという木は、枝をかむと本当に苦い。薬効もあり、まさに「良薬、口に苦し」です」と、名付けのおもしろさを語る。

子どもの頃は京都市内の用水路でヤゴを捕ったり、野原の草いぎれを感じて育った。高度経済成長へ向かい、自然保護の大切さが言われ始めた時代。将来は自然に関わる仕事を」と志した。

京都府立大の林学科を卒業後、京都大農学研究所に進んだ。当時、教授だった森林生態学者の故・四手井綱英さんが語った言葉を胸に刻む。「自然に答えが教えられる」。声生の京大演習林(現・研究林)をフィールドに歩き回った。

京都府庁の林業職の職員になり、山の造林検査や森林施業計画の策定など林務行政を20年間担当した後、40代半ばで府立植物園へ。樹木係長として、担当する約5万5千本の樹木と国内自生の野草数百種がどこかの場所にあるか

地図づくりに力を入れ、栽培や維持管理の現場で汗を流した。

植物園の歴史をさかのぼると、今から約100年前の1923(大正12)年11月に大正記念京都植物園として完工。翌年1月、有料開園。戦後、進駐軍に接収されて存続の危機に見舞われたが、その後、返還され、1961昭和36)年4月に京都府立植物園の名称で再開園した。

子どもから大人まで多くの人に親しまれているが、2004年に技術課長になり、入園者の減少への対応に迫られる。「杞憂でしたが、万一、外部委託の指定管理者制度の対象になったらとの懸念、学生のアラトはいえサッカースタジアムと知り、戦後の接収に継ぐ第一の危機と悩みまし

たと振り返る。

打ち出したのは「ほんまもん」の植物で勝負。「しかも直球で」。ロックコンサートなどのイベントをすれば、一時的に入園者は増えるが、その道はとらない。職員一人一人にアイデアを求め、冬のクリスマスイルミネーション、土曜ミニミニガイドなど業種を充実した。

動物の行動展示で人気を博していた旭山動物園(北海道旭川市)も訪ねた。小菅正夫園長に会って「動物にすこい愛情を持ち、現場を重視し、

ほんまもんの動物で勝負しておられた。それを植物に置きかえると、「一緒に」と、目指す方向を確信した。

2006年に植物園長になり、10年ぶりに70万人を回復できた。「税金が投入されている植物財産を職員が努力で還元できた表れ」とうれしかったという。2010年に定年を迎え、名誉園長。併せて母校の京都府立大の客員教授になった。

大学では、主に樹木学習を行っていた。机上だけではなく、現場で実際に体感することになり、重きを置く。「アナログの教育は絶対に大事です」。さらに文理融合も心がけてい。一つの植物を見て、理学的な面から分類や図鑑の

話、と同時に源氏物語の中で紫式部はこう表現している」と多面的見方を示す。

伝え、気づいてもらうことを実践している。勉強という、強いる感じがするからという。「おもしろいやらから入って、興味を持たせます。子どもの頃の原っぱの草いぎれが原点かも」。

人間にとつての植物の意味を尋ねた。植物が酸素を生むから動物は生きていけますし、人の心を癒やし、精神の安定にもつながります」と話し、植物園は「神秘のベールに包まれた秘密の花園です」と。「ほんまもんの植物園」の伝道師として、現場に立ち続ける。(鈴木哲法)

次回回は20日に掲載します



© 京都新聞社 無断複製・転載を禁じます